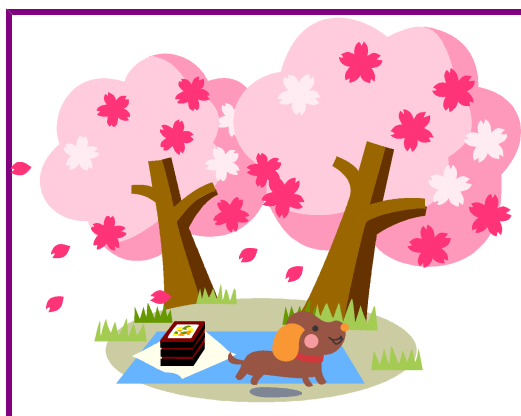


めぐみイエス・キリスト教会

2020年3月29日(日)第五主日礼拝
週報「通算第500号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時~11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時~7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分~7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年3月29日 第五主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」 p. 150

【交読文】 No.53 ルカの福音書22章 p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌505「主われを愛す」 p. 807

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.7 「私の十字架」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書12章1節～8節(新約p. 207下段)

【祈 禱】

【説 教】 《過越の祭の六日前に》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌198「God Bless You」 p. 294

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱後奏】

●ポイント1.マルタとマリヤ姉妹とは？

※ルカの福音書10章38節～42節「ある村において」(新約p.136下段)

10:38 さて、一行が進んで行くうちに、イエスはある村に入られた。すると、マルタという女の人がイエスを家に迎え入れた。

10:39 彼女にはマリアという姉妹がいたが、主の足もとに座って、主のことばに聞き入っていた。

10:40 ところが、マルタはいろいろなもてなしのために心が落ち着かず、みもとに来て言った。「主よ。私の姉妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのですか。私の手伝いをするように、おっしゃってください。」

10:41 主は答えられた。「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い

煩って、心を乱しています。

10:42 しかし、必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。」

●ポイント2. 共観福音書における同一記事から

※マタイの福音書26章6節～13節「シモンの家において」(新約p.55下段)

26:6 さて、イエスがベタニアで、ツアラアトに冒された人シモンの家におられると、

26:7 ある女の人が、非常に高価な香油の入った小さな壺を持って、みもとにやって来た。そして、食卓に着いておられたイエスの頭に香油を注いだ。

26:8 弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「何のために、こんな無駄なことをするのか。

26:9 この香油なら高く売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」

26:10 イエスはこれを知って彼らに言われた。「なぜこの人を困らせるのですか。私に良いことをしてくれました。

26:11 貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいます。しかし、私はいつも一緒にいるわけではありません。

26:12 この人はこの香油を私のからだに注いで、私を埋葬する備えをしてくれたのです。

26:13 まことにあなたがたに言います。世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人がしたこともこの人の記念として語られます。」

●ポイント3. 私たちのアイデンティティーとは？

※ヨハネの福音書17章14節～16節「主イエス様の祈りから」(新約p.220)

17:14「私は彼らにあなたのみ言葉を与えました。世は彼らを憎みました。私がこの世のものでないように、彼らもこの世のものではないからです。

17:15 私がお願いすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。

17:16 私がこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。」

◎先週のメッセージの概要【イスラエルの再興】

《よみがえられてから 40 日目のことです。イエス様は十一弟子と食事を共にし、エルサレム市内から彼らを連れて、オリーブ山に行かれました。「主よ。イスラエルの為に国を再興して下さるのは、この時なのですか。」彼らが尋ねた「この時」とは、イエス様が「間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられる」と、言われたその時と言う意味です。この時点においても、弟子たちは、イエス様がローマ帝国の手からイスラエルを再興させて下さる政治的メシヤであると考えていたのです。なぜならイザヤ書には、メシヤによって、ダビデの王国が再興されることが預言されているからです。『エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。その日になると、エッサイの根はもろもろの民の旗として立ち、国々は彼を求め、彼のとどまるところは栄光に輝く。』と。

「いつとか、どんな時とかいうことは、あなたがたの知るところではありません。それは、父がご自分の権威をもって定めておられることです。」

ここでは、何時については、イエス様は触れてはいませんが、再興されることを改めて約束されているのです。

公生涯の初めの頃、主は弟子たちに「再臨」の教えをされました。『「その時、人の子のしるしが天に現れます。地のすべての部族は人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光と共に来るのを見るのです。人の子は大きなラッパの響きと共に御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。ただし、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。』と。

つまり、イエス様がイスラエルを再興されるのは、再臨後ということなのです。この次に成就する預言は「教会の携挙」です。しかし、まだ時間は残されてます。遠い島々(日本)にリバイバルが来なければなりません。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、4月5日(日)に行ないます。受難週に入ります。よってイースター礼拝は、4月12日となります。また「聖書の学びと祈り会」は、4月1日(水)・8日・15日・22日・29日に、各家庭において行ないます。